

楽しくできる予防歯科 —みんなでつくる well-being 歯科医院

デンタルタイアップ代表・マネジメント修士・歯科衛生士／小原啓子



B5判 180頁
 定価 4,830円
 (本体 4,600円＋税 5%)
 医歯薬出版刊
 (2009年2月発行)

まず、本書を著した「NPO 法人ウェルビーイング」(以下、ウェルビーイング)が35周年を迎えられたことにお祝いを申し上げたい。ウェルビーイングは、福岡予防歯科研究会として1973年に発足し、数々の功績を残して歯科医療の発展に貢献してきた。スタディグループの立ち上げや歯科診療所の開設、各診療所における予防の取り組みや経営の成り立ちについての実践的な研究発表といった多岐にわたる活動・活躍を目にするたび、私はその高い志に感動を覚えていた。実際に、私も30年ほど前に歯科診療所を見学させていただき、“今後の歯科医療はこんなふうになる可能性があるのか”と期待に胸が高まる思いをした。

さて、“1つの企業の寿命は30年”とよくいわれる。30年の間に、組織は準備期間から成長期を迎え、その後、成熟期に達する。ウェルビーイングも、子どものむし歯予防から始まり、地域社会活動を通して母子保健、産業歯科、成人歯科、地域づくりとその活動が変化してきたことがわかる。

その後、さらに成長を続けたウェルビーイングは、“人と人とのつながりをどう活かすのか？”

という課題に遭遇し、歯科医院のマネジメントという新たなステージに立ち、「OPPA(オーパ)モデル」や「プログラムマネジメント」の手法を提案している。

本書では、それらのシステムが実例をふまえながら詳細に紹介されているが、そのシステムを読者がそのまま医院で実践しようとしても成功するとは限らない。まず、システムを導入しようとする歯科医院に、“高い志のもとで、チーム一丸となって取り組むための体制づくりの手がかりを伝える”——それが本書の主題の1つといえよう。

ここまで来て、私が書評を書かせていただく意義を確認することができる。これはマネジメントそのものだからだ。私はいつも、マネジメントは“組織のしくみづくり”と“人の能力をいかに活かし伸ばすか”であると説明している。本書には、経営学でいう「戦略経営」とも解釈できるシステムが紹介されており、「OPPAモデル」や「プログラムマネジメント」は、歯科医療界において非常に興味深く、画期的な取り組みであるといえる。

本書からは、歯科医療界をリードしてきたという自負、高い志、明確な理念が感じられるとともに、新たなシステムをすべての歯科医療者に惜しみなく提供する姿勢からは、歯科界を愛する心も伝わってくる。

ぜひ、歯科衛生士の皆さんも、本書を通して、歯科衛生士は歯科医院のシステムづくりにかかわる「一員」であることを自覚していただきたい。また、自分には何ができるのかを考え、発言し、行動するためのきっかけをみつけてほしい。

本書は、新しい自分を発見できる1冊になるであろう。